

# 港湾振興便り



2025. 1  
第212号

\*:\*

## 目 次

\*:

1 ポートエッセイ ―農林水産物・食品の輸出拡大に期待―  
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

## 2 トピック

- 第13回北海道みなとオアシス活性化協議会を開催しました  
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
- 東京湾再生の願いを込めて～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～  
(関東地方整備局港湾空港部)
- ～建築土木を学ぶ学生へ～建設業の魅力を伝える説明会を開催  
(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)
- 「令和6年度大阪ベイスクール」を開催  
～大阪湾再生行動計画(第三期)関連イベント～  
(近畿地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)
- 志布志港で港湾緑地を活用した官民連携によるイベントが開催されました！  
(九州地方整備局 志布志港湾事務所)
- 第一工科大学現場見学会開催 ～未来の活躍者たち、ようこそ志布志港へ！～  
(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

\*:\*

## 1 ポートエッセイ ―農林水産物・食品の輸出拡大に期待―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、本年も引き続き港湾振興に向け、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、新年を迎え、家族や親戚などとおせちを囲みながら一年の始まりに願いを込めて日本酒で乾杯をした方も多いと思う。昨年12月、ユネスコ無形文化遺産に日本の「伝統的酒造り」の登録が決定した。「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録に続き、日本一酒蔵の多い酒どころ新潟にとっても明るい話題となった。

2013年に同じくユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」をきっかけに和食に合う「SAKE」は海外での人気が高まっているようだ。

それを物語るかのように、日本酒の輸出は好調で、新潟においても各酒蔵が海外販路拡大に力を入れている。今回の無形文化遺産登録が弾みとなり、更なる輸出拡大につながることを期待したい。

また、海外での和食ブームは「米」の輸出にも影響を与え、輸出金額は右肩上がりで推移している。新潟県産米の輸出量も昨年度は過去最高を記録した。米も国内消費量が減少を続ける中、海外販路の拡大を模索している。

輸出の際には、物流におけるコストや輸送時間などが重要となってくるが、先般新潟港では県産米をアメリカ(ハワイ)へ輸出する実証実験が行われた。新潟港から輸出出来ないかを検証し、コスト、時間、品質等の比較を行い最適なルートを検討していくとのことである。国内輸送費の値上げが続く中、販路拡大に向けて物流ルートも重要な要素の一つである。新潟港利用の輸出拡大に期待したい。

国内人口の減少に伴い市場規模が縮小する中、農林水産業、食品産業が持続的に発展していくためには、国内需要だけではなく、海外需要も獲得していくことが必要であり、国は2030年、農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする目標を掲げている。

この目標の達成に向けては、港湾施設の整備も必要不可欠であり港湾振興団体として、関係各位とともにこれからも国などに働きかけていきたい。

改めて本年もよろしくお願いいたします。

\*:\*

## 2 トピック

\*:

### ●第13回北海道みなとオアシス活性化協議会を開催しました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

令和6年12月10日(火)、第13回北海道みなとオアシス活性化協議会を北海道開発局・(一社)寒地港湾空港技術研究センターの共催により、道内各地のみなとオアシス運営協議会をはじめ38名が参加し開催しました。

今年のみなとオアシス活性化協議会では、現在までの取組内容について再確認するとともに、来年以降の取組内容について意見交換を行いました。みなとオアシスの『おもてなし』の取組内容として、地元での Sea 級グルメの新規認定・開発や、地元飲食店等で食事ができる様にする取組みについて活発な議論を行いました。また、みなとオアシスの『認知度アップ』の取組としては、みなとオアシスピングの販売促進や、SNS の活用について議論が交わされました。

今年のみなとオアシス活性化協議会で議論した取組内容を基に来年以降のみなとオアシスの取組や、みなとオアシスの活性化に繋げて参ります。



意見交換の様子

●東京湾再生の願いを込めて～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～

(関東地方整備局 港湾空港部)

令和6年12月20日(金)に横浜市立金沢小学校と横浜市立みなとみらい本町小学校の生徒たちがアマモメッセンジャー(アマモに東京湾再生のメッセージを込める者)として関東地方整備局を訪問し、「東京湾を海の生き物でいっぱいにしてほしい」との願いを込め、アマモの種を届けてくれました。

金沢小学校は、総合学習でアマモの再生活動に長年取り組んでおり、毎年アマモの種を届けています。環境保全活動に力を入れているみなとみらい本町小学校も参加し、「海との関わりについての SDGs 活動」を通し、「生き物や環境を守っていくために、自分たちでどのようなことができるかを考えていきたい」というメッセージを届けてくれました。

平成19年に始まったこのセレモニーも18回目を迎え、「東京湾の環境をよくするために行動する会」、「東京湾 UMI プロジェクト」に参加している団体や、アマモ場の再生活動に取り組んでいる方々など約60名に参加いただきました。

関東地方整備局では、持続した価値ある取り組みとして活躍する子どもたちの善意に感謝し、届けられたアマモの種を東京湾再生への活動の輪として大きく育ててまいります。



集合写真



アマモメッセンジャーから衛藤副局長へアマモの種の贈呈

●～建築土木を学ぶ学生へ～建設業の魅力を伝える説明会を開催

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

令和6年12月4日(水)、北陸地方整備局 敦賀港湾事務所は、福井工業大学工学部建築土木学科の2年生23名を対象に、将来の建設業界の担い手確保を目的として、(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部、(一社)港湾技術コンサルタンツ協会との共催で“建設業の魅力についての説明会”を開催しました。

説明会では、計画、調査、建設を担う発注者(公務員)、建設会社、設計コンサルタントそれぞれの立場からインフラ整備への携わり方や魅力を説明したほか、若手職員がどのような仕事をおこなっているのか、スライドや動画を交えて紹介しました。

質疑応答では、「学生のうちに取得するとよい資格はあるか」「異動の頻度はどれくらいか」といった質問があったほか、「仕事内容やどのような分野に関わっているかが分かり今後の就職決めの参考となった」「公務員の仕事の流れや仕事の内容を詳しく知れて参考になった」といった感想が聞かれました。

この説明会が、学生の皆さんそれぞれの将来について考えるきっかけの場となるとともに、将来の担い手へと繋がることを期待しています。



真剣に聴講する学生たちの様子



若手職員による仕事の紹介



●「令和6年度大阪ベイスクール」を開催～大阪湾再生行動計画(第三期)関連イベント～

(近畿地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

近畿地方整備局港湾空港部では、令和6年11月24日(日)に高校生を対象とした海の環境学習イベントとして、「大阪ベイスクール」を開催しました。このイベントは、関係省庁及び関係地方公共団体等が参画する「大阪湾再生行動計画」の取り組みの一環として、令和4年度から継続的に実施しています。

現在、「大阪湾再生行動計画」では、学校教育・民間企業等を含めた多様な主体との連携による将来世代の育成を重点的な取り組みの一つに位置づけています。これを踏まえ、「大阪ベイスクール」では、学識者、地元漁業関係者等を講師に招き、水質や底質等の環境調査体験、海洋環境整備船の見学、水質浄化実験など行いました。

参加した生徒からは、様々な専門家の説明がわかりやすく、普段できない体験や経験を得ることが出来てよかったなどの感想が寄せられました。

近畿地方整備局港湾空港部では、これからも大阪湾再生の取り組みを推進して参ります。



水質調査体験の様子



底質調査体験の様子



浮遊ゴミ・油を回収する海洋環境整備船の見学



アサリを使った水質浄化実験の様子

●志布志港で港湾緑地を活用した官民連携によるイベントが開催されました！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

令和6年12月8日(日)、鹿児島県志布志市に所在する志布志港公園・通称「観光船バース」において、「しぶし肉フェス&音フェス」が開催されました。

本イベントでは、大隅地域における食の魅力発信を図るため、鹿児島県産の黒毛和牛や鶏もも、豚バラなどを使用したBBQや、マルシェによる地元特産品の提供が行われました。

また、当日は、志布志湾という特別なロケーションを活かして、音楽イベント「SUN SET BERTH」が合わせて開催され、バンド演奏やキッズダンス、DJなどの多くのパフォーマーが出演し、会場を盛り上げました。

志布志港は、南九州地域の国際物流拠点・飼料供給基地としての重要な役割を担う一方、人々が集い、親しむ場所として港を活用したいというニーズが近年高まっております。

今後も交流人口の増加や地域経済の活性化を図る観点から、多様なニーズを踏まえた公共空間の利活用が行えるよう取り組んでまいります。





●第一工科大学現場見学会開催 ～未来の活躍者たち、ようこそ志布志港へ！～

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

令和6年12月10日(火)に九州地方整備局 志布志港湾事務所は第一工科大学環境エンジニアリング学科の2年生38名、3年生5名の計43名の学生に対して現場見学会を実施しました。

現場見学会では、志布志港のバルク岸壁や若浜地区岸壁(-12m)、コンテナターミナル、ケーソン製作工事現場を見学しました。

志布志港の施設と役割、地域社会や産業との関わり方、志布志港の国際的な位置付けなどについての説明を行い、学生たちは港湾事業の面白さや志布志港の重要性について学んでもらいました。また、ケーソン製作工事現場では、ケーソンを見学するだけでなく、実際にFD(フローティングドック)に乗船し、現場の雰囲気を感じてもらいました。

参加した学生からは、「普段立ち入ることのできない現場を見学できたことは、とても貴重な経験になった」、「将来を多面的に考える貴重な機会になったと感じた」といった声がありました。未来の活躍者たちに対してより港湾に興味をもってもらえるような機会を今後も創出していきます。



第一工科大学学生、現場見学会



